

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本校は、昭和57年に利波河（とのご）の地に開校して今年で44年になる知的障害と肢体不自由の障害種別の学校です。肢体不自由のある児童生徒を受け入れ、「総合支援学校」となり18年になります。令和8年度は、校訓である「明るく 仲良く たくましく」のもと新たに37名の新入生を迎え、小学部58名、中学部34名、高等部51名の計143名の児童生徒でスタートしました。

本校は子供たち一人一人の特性や可能性を最大限に伸ばし、豊かな未来を切り拓いていくための教育を行っています。子供たちが日々の生活の中で、新しいことに出会い、「やってみたい」と目を輝かせる姿は、私たち教職員にとって大きな喜びです。

しかし、新しい一歩を踏み出すとき、子供たちの中には言葉にできない不安やドキドキする気持ちが隠れていることもあります。

私の好きなSEKAI NO OWARIの「Fight Music」という曲の中に、このような歌詞があります。

「だって本気なんか出して負けたらどうする？」「僕らがいますぐ欲しいのは『ソレ』から逃げる『理由』なんかじゃなくて」「『ソレ』と戦う『勇氣』が欲しいんだ」

日々の体調管理、着替えや片付けなどの身の回りのこと、新しい課題への挑戦。子供たちにとっては、毎日がたくさんの「戦い」の連続です。「うまくできないかもしれない」と、挑戦する前に手が止まってしまうこともあるでしょう。そんなとき、学校が果たすべき役割は、ただ「がんばれ」と背中を押すことだけではありません。子供たちが本当に求めているのは、「失敗しても大丈夫」「一緒にやってみよう」と思える安心感であり、それが困難に立ち向かう「勇氣」に変わるのだと、この歌詞は教えてくれます。

本校は、子供たちが安心して「勇氣」を出せる場所でありたいと考えています。上手くいなくても、歩みがゆっくりでも、それは決して「負け」ではありません。曲中にある

「どんなに醜く負けても僕は勝つまで戦う『理由』があんだ」という言葉のように、何度でも、その子のペースで挑戦し続けるしなやかな強さを、私たちはじっくりと育ててまいります。

子供たちの「できた！」という笑顔を一つでも多く増やせるよう、ご家庭や地域の皆様と手を携え、全教職員が一丸となってあたたかい教育活動を実践してまいります。

今後とも、本校へのご理解とあたたかいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

富山県立となみ総合支援学校  
校長 宮澤 悟史